

授業科目名	【G】 【EF】	英米法 I 英米法 I	区分 選択	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目						
授業形態	対面授業						
担当形態	単 独	【G】 【EF】					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	比較法の総論および英米法総論			担当者	吉田 一雄		
授業概要	【概要】	英米法とは、比較法上、大陸法または社会主義法と対置される法体系の呼称である。代表的特徴として、判例法主義がある。近時、グローバル化の影響で、外国法研究は実学的性質が増している。英米法 I では、個別の法分野の問題を取り扱う前提として、比較法の意義を確認し、英米法体系を学習する。					
	【到達目標】	我が国と異なる法システムの学習を通じて我が国のシステムを一層深く理解すると共に、我が国への外国法の影響を研究する基礎を築くことを目標とする。					
履修条件	なし						
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)					
他科目との関連性	法学全般、英米法 II						
教科書	「アメリカ法への招待」E・アラン・ファーンズワース著スティーブ・シェパード編 笠井 高山訳 勁草書房 ISBN978-4-326-40288-5 ￥2500+税						
参考書	『英米法序説』矢頭敏也編著(敬文堂)(絶版だが、本学図書に蔵書あり。) 日本法に関する法学の教科書(各自任意)						
評価方法	各時間、授業レポートとして、A4版1ページのレポートを提出すること(最低10レポートの提出がなければ単位を与えない)。提出されたレポートの高得点の2本の合計を評価とする。						
フィードバック方法	授業レポートにつき、全体へのフィードバックの他、各自にはレポートの添削を行う。						
評価基準	英米法の判例法主義の意味を理解している水準を「C」、判例と制定法の関係について理解している水準を「B」、裁判官の役割についてまで理解している水準を「A」、レポートと確認テストが高水準である場合を「S」とし、日本法との差異が理解されていない水準を「D」、全く無理解を「E」とする。また、レポート10本が提出されない場合には「F」。						
その他	英米法固有の問題を取り扱うほか、比較法の目的のため、日本法について相当量言及がある。また、学習効果を高めるため、学習環境改善のための内容を盛り込むことがある。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。						

授業科目名	【G】	英米法 I	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【EF】	英米法 I	選択		【EF】3		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	英米法の学習方法						
	予習: 教科書を通読しておくこと			復習: 図書館にある英米法関係資料を確認すること			
2	比較法総論						
	予習: 清和法学研究掲載論文のテーマを確認すること			復習: 比較法の意義を確認すること			
3	法系論						
	予習: 民法の3大原則とは何か			復習: 近代西欧の法系分類			
4	英米法域						
	予習: 大英帝国の広がりとアメリカ独立の理由は何か			復習: 世界地図で英米法域を確認すること			
5	英米法のリサーチ方法(1) non-digital						
	予習: 本学図書館の十進分類法を理解しておくこと			復習: 本学図書館での資料調査を試みること			
6	英米法のリサーチ方法(2) digital						
	予習: 検索エンジンの利用方法を理解しておくこと			復習: インターネットを利用した資料調査を試みること			
7	英米法の日本への影響						
	予習: 我が国の法学の教科書を一読すること			復習: 我が国の法制度との整合性を確認する			
8	コモン・ローの意義						
	予習: 教科書の索引から関連箇所を読んでおくこと			復習: 多義性を理解確認すること			
9	法源論(1) 制定法						
	予習: 制定法の役割は何か			復習: 我が国の制定法との違いを確認すること			
10	法源論(2) 判例法						
	予習: 判例法の形成過程			復習: 我が国の判例法との違いを確認すること			
11	パンデクテン・システムとコモン・ロー						
	予習: 大陸法の制定法主義に関して把握しておくこと			復習: 大陸法と英米法のシステムの違いを理解すること			
12	先例拘束性の原理(1) 裁判所システム						
	予習: 教科書の索引から該当箇所を読んでおくこと			復習: 裁判所の階層と拘束力の関係の理解			
13	先例拘束性の原理(2) 個別判決の拘束力						
	予習: 教科書の索引から該当箇所を読んでおくこと			復習: 判決の拘束力の意味の理解			
14	制定法解釈の準則						
	予習: 教科書の索引から該当箇所を読んでおくこと			復習: 解釈準則の理解と確認			
15	まとめと復習(レポート講評)						
	予習: 授業レポートの補完			復習: 自己採点			

科目コード B141-1-X